

特別研究委員会名称	住民参画・社会環境特別研究委員会
新規、継続の種別	新規
委員長氏名、所属	長野博一 荒川区役所防災都市づくり部
公募の有無	あり
研究目的と 主な研究事業	<p><研究目的></p> <p>現在我が国は少子高齢化時代に突入し、高齢者・障がい者・妊産婦や乳幼児連れ世帯等が生活しやすく、かつ移動しやすい環境整備が急務となっている。それと同時に、社会として移動制約者等への理解がまだまだ不足している状況に対し、気づきの意識啓発や1人ひとりの心のバリアフリーの理解と浸透は、緊急的に進めるべき社会環境としての大きな問題と捉えることが出来る。</p> <p>また、これまでバリアフリー基本構想や福祉のまちづくり計画に対しては、住民参加の手法を取り入れ進めている状況が近年多数見られるが、実質的には行政が主導で行っているのが実情であり、また、個別事例の報告は多数挙げられているが、具体的な実践事例を積み上げ、そして検証することが求められている。</p> <p>上記背景を踏まえ、本研究委員会では、住民参加・市民参画の具体的事例から、福祉のまちづくりにおける自助・共助・公助の視点で取り組む方策を議論し、障害理解や心のバリアフリーの啓発方法などを模索しつつ、今後の社会環境づくりへ向けた問題提起を行う。</p> <p><主な研究事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会の開催 年2回程度、2カ年で3回程度実施 ・福まち学会編「心のバリアフリーかんたんガイド※」の作成 ・「福祉のまちづくりにおける住民参画の在り方に関する報告書」の作成 ・その他見学会や視察等適宜実施 <p>※ハンドブックとは違い、かんたんガイドでは総論、概要を中心に記述し、ハンドブック作成のための指南書としてのイメージ (制作物の詳細：現時点では(仮))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉のまちづくり学会として、「(仮)心のバリアフリーかんたんガイド」を新規に作成し、行政・交通事業者・施設管理者等が作成するハンドブック等の指南書的な役割を担う一助とする。執筆等は委員で分担。 ・「(仮)福祉のまちづくりにおける住民参画の在り方に関する報告書」をとりまとめ、基本的な枠組みについて示すと同時に、各種実践事例等を紹介する。執筆は委員で分担し、場合によっては書籍化も検討する。
その他特記事項	<p>活動場所：関東（都内及び近郊）</p> <p>委員構成：コアメンバー以外の委員は公募による</p> <p>特 色：本学会員ではない専門家や活動家、国交省の担当官等を招いての公開研究会や、先進自治体の取組み視察、積極的に活動している住民組織・任意団体等を招いてのイベントなどを実施予定</p> <p>その他：関東甲信越支部、子育て・子育て特別研究委員会等と連携を図りつつ、進める。また、国交省関東運輸局バリアフリーリーダー会議ともイベント共催等の調整を図る</p> <p>スケジュール：2カ年の予定は下記のとおり (27年度)</p> <p>年度途中からのスタートとなるため、まずは年度末に開催予定の第1回公開研究会への準備を進めつつ、先進自治体等への視察等を実施する。</p> <p>第1回公開研究会：(仮)住民参画型福祉のまちづくりの現状とこれから</p>

	<ul style="list-style-type: none">・制作物は、基礎資料の収集程度、委員個々の取組み状況のまとめ(28年度)第2回公開研究会を6月、第3回公開研究会を12月に行う。第2回公開研究会：(仮)心のバリアフリー推進に関する内容第3回公開研究会：(仮)福祉のまちづくりにおける「自助・共助・公助」・制作物について、順次まとめ作業 <p>※随時メーリングリストにより情報共有・情報交換を進め、状況によって年数回程度委員で集まり議論等を行う。</p> <p>※コアメンバーは個々に取組み事例等を持っているので、それらを中心に議論を展開、報告書のまとめへと移行。</p>
--	--